

※文字の大きさは Meiryō UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。  
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。  
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は、変更可能です。  
 ※いずれの場合も、必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

<エントリーシート>  ※事務局記入欄  <b>No. : C - 4</b>	部門  校内研修部門	学校名・氏名  京都市立下京中学校
	活動名 「学びを深める教育実践」  問いや対話的活動を工夫した授業改善	

**課題の設定：**  
 「この授業は何の役に立つの？」ある生徒の授業中の発言によって、本校は授業改善の取組を始めた。5つの中学校が統合してできた本校は、開校以来多くの取組を行ってきた。しかし、その取組が生徒にとって将来に役立つ学びとして伝わっていなかったのではと見直しを進めた。その時以来、全ての教育活動にキャリア教育の視点を取り入れ、この数年はキャリア発達を促し、学びを深めるための授業改善を行っている。

**方針・計画：**  
 各授業の中で、効果的にキャリア発達を促す方法として、アクティブ・ラーニングの視点を取り入れた。特に思考ツールを活用することで、生徒は自分の考えを可視化し、操作・整理することで思考活動が促進される、と同時に対話活動も活発になり授業が活性化。また、問いを工夫することで生徒は考えることに必然性を感じ、主体的に思考するようになり、より学びが深まっていくと考えた。

**活動内容：**  
 「本質的な問い」：必然性があり生徒の探究心を促す教科の単元の本質に迫る「問い」を設定する。  
 「思考ツール」：情報やイメージを可視化し、課題に対する個々の捉え方を他者にも自分自身にも分かりやすく整理できる。また、シンプルな図形の枠組みの中で、考えや情報を操作することで対話を活発にし、知識を結び付けることによって学びを深める。  
 「クロス持ち授業」：全教員が教科授業を複数学年受け持つことによって、教科会を活性化させ、教科の見方・考え方を働かせ、教科で身につけさせたい資質・能力を明確にした授業を構築する。


**活動の成果：**  
 各教科の指導者がこれまでの自分自身の授業法を再考し、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善に取り組むことができた。「本質的な問い」「思考ツールの活用」等に目を向け、教科会で活発な議論を交わすことにより、学びが深まっている授業が多くなった。本質に迫り深い学びをどのように実現するか、どのように見取るかを教職員同士で議論することにより、教職員間の連携が強まり、組織的に授業改善を進めることができた。

<思考ツールを活用した授業後の生徒の感想>  
 ・思考ツールを使うようになって、自分の考えやグラフなどの情報が頭の中で整理しやすくなりました。  
 ・思考ツールを使うことによって、より深く考えたり、班の人と交流したりできるので理解しやすい。


<生徒質問紙の結果>  
 「授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか？」 H29：70%→H30：75%

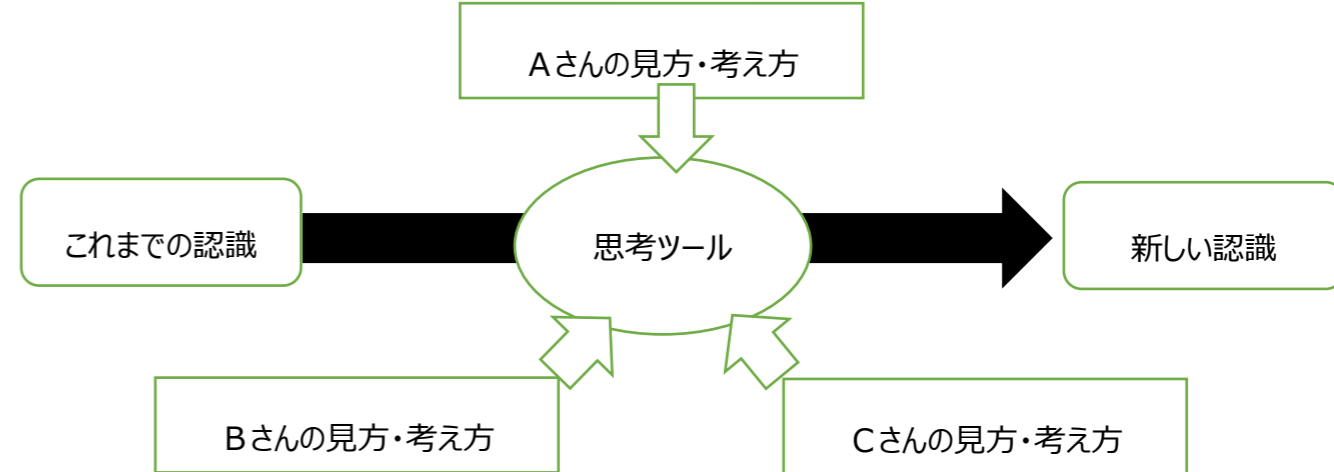
**アピールポイント（アイデアや工夫）：**  
 ・すべての教育活動をキャリア教育の視点で捉え、身につけさせたい資質・能力を教科ごとに明確にしている。年度初め授業オリエンテーションの中で、教科ごとに身につけたい力を生徒に伝えている。  
 ・学年ごとの各教科単元配列表を、学習内容版と資質・能力版の2種類を作成し、カリキュラム・デザインの実現を目指している。  
 ・廊下に思考ツールの紹介を掲示し、思考ツールの有効性に対する生徒への意識の定着を図っている。  
 ・思考ツールを教科授業だけでなく、特別活動や部活動の指導にも取り入れている。

思考ツールを活用し活発になった対話活動




課題解決に向けて思考ツールで考えを整理

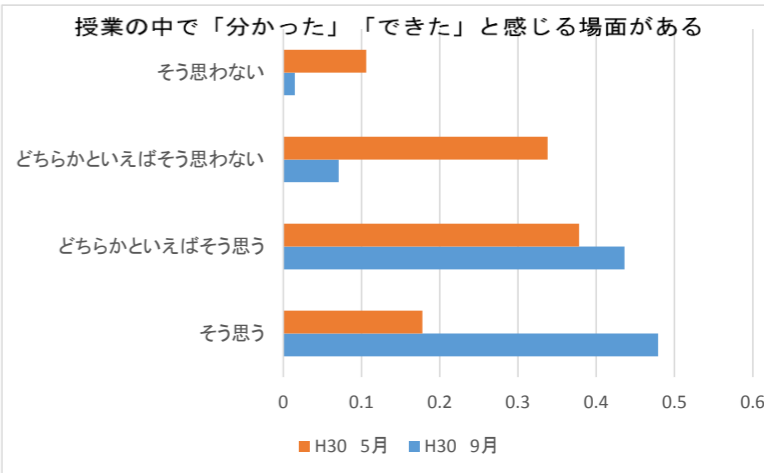




「本質的な問い」について議論する教科会



授業の中で「分かった」「できた」と感じる場面がある



感想	H30 5月	H30 9月
そう思う	0.18	0.48
どちらかといえばそう思う	0.38	0.42
どちらかといえばそう思わない	0.32	0.08
そう思わない	0.12	0.02

従来の授業の持ち方

	2組	3組	4組
1年	A先生		
2年	B先生		
3年	C先生		

“クロス持ち授業”の持ち方

	2組	3組	4組
1年	A先生		B先生
2年	A先生	C先生	
3年	B先生		C先生